

緒言

二松學舎大学附属図書館蔵 奈良絵本『保元物語』『平治物語』（以下、二松本『保元・平治』と略称する）は、二〇〇五年度に鎌田廣夫・内田和文庫の資料として購入された。同文庫は、一九九九年に故鎌田廣夫教授夫人内田和氏の遺言によって寄せられた基金をもとに附属図書館に設置されたもので、以来、主に「国語学を学ぶ学生のため」に、貴重資料を蒐集し、構成されてきたものである。鎌田先生のお仕事の一角に、『佐賀県立図書館蔵平家物語』（複製。二松學舎大学出版部、一九八五年）、『天草本平家物語の語法の研究』（おうふう、一九九八年）等があることから、その蒐集品目中には自ずと軍記の類も多くなっていたのであるが、そこで、この文庫のいわば眼目として、最終期に残された基金の大半を割いて購入されたのが、この二松本『保元・平治』である。それは、北海道の古書肆より買い入れられた新出本で、書誌は本学東アジア学術総合研究所研究成果報告書『二松學舎大学附属図書館蔵 奈良絵本『保元物語』『平治物語』』中に小井土守敏氏が「略書誌」としてまとめ、また、本書中にも改めて著しているからそれに譲るが、一二巻一二帖（『保元』・『平治』ともに六卷六帖の完本）で、表紙は緞子、本文料紙は金泥草木模様の鳥の子、見返しは巾繫地模様入り金紙、半紙本型列帖装の豪華本である。が、それは図書館に配架後、長らく書庫に眠っていた。そこで、貴重資料の公開推進が図られる昨今の事情を鑑みて、急遽、二〇一一年度二松學舎大学東アジア学術総合研究所の共同プロジェクト「二松學舎大学附属図書館蔵 奈良絵本『保元物語』『平治物語』の翻刻と研究」が、磯水絵・小山聡子・小井土守敏によって結成さ

れた。そして、翻刻の第一次稿本は、本学大学院生・学部生を募って開始された翻刻作業を受けて、二〇一二年三月に東アジア学術総合研究所研究成果報告書として上梓された。折から二〇一二年には平清盛が大河ドラマに取り上げられ、各地でそれに関わる展覧会やイベントが目白押しとなり、『平家物語』の絵巻、屏風絵、奈良絵本のみならず、それに先行する『保元物語』、『平治物語』等のそれも、多く世に紹介される仕儀となり、結果として、『保元・平治』の奈良絵本研究も、石川透氏を中心に大きく伸長した。本学において、二〇一二年二月二五日、一三年二月二三日に開催した公開ワークショップ「源平の時代を視る」も盛会であった。参考に、第一回、第二回の講演プログラムを次に記す。

第一回 「二松學舎大学附属図書館蔵『保元物語』『平治物語』について」 大妻女子大学 小井土守敏氏

「『保元・平治物語』の奈良絵本・絵巻」 慶應義塾大学 石川透氏

「奈良絵本「保元・平治物語」の装束について」 宮内庁書陵部 鈴木眞弓氏

第二回 「二松學舎大学蔵『保元物語』平治物語」の挿絵をめぐる」

立教新座中学校高等学校・立教大学兼任講師 出口久徳氏

「二松學舎大学所蔵『保元物語』『平治物語』にみえる建物等について」 宮内庁書陵部 小森正明氏

「『愚管抄』と『保元物語』『平治物語』をめぐる」 日本女子大学名誉教授 麻原美子氏

この二回のワークショップが、諸方の二松本『保元・平治』への興味を深め、関心と呼び起こしたことは言うまでもないが、我々の研究にも多くの示唆を与えてくれた。

さて、二〇一三年一月には、東アジア学術総合研究所研究成果報告書を底本としての、「二松本『保元・平治』挿絵研究会」が、磯・小井土・田中幸江・神田邦彦、磯ゼミナール四年生（阿部美咲・泉谷絢子・小山田沙希）で組織され、五回の研究会が実施された。その席上においては、阿部・泉谷・小山田の三嬢より二松本『平治』

の挿絵の分析結果が報告された。それについてはさらに精査し後日発表する。

以上が、本プロジェクトの軌跡である。本書の上梓をもってその活動は終わるが、それが研究の終わりでないことは言うまでもない。

平成二十六年二月

磯 水 絵

緒言

磯 水絵 1

奈良絵本『保元・平治物語絵巻』について

石川 透 9

第一部 二松學舎大学附属図書館所蔵の奈良絵本『保元物語』『平治物語』の諸相

二松學舎大学附属図書館蔵奈良絵本『保元物語』『平治物語』について 小井土守敏 17

二松本『保元物語』挿絵についての一考察

小森 正明 37

——「後白河院御即位の事」の挿絵を素材として——

二松本『保元物語』『平治物語』挿絵の天皇表現について

山本 陽子 52

——庶民の描かれた「御即位図」との関連——

描かれた『保元物語』『平治物語』の世界——二松本を中心に——

出口 久徳 75

奈良絵本『平治物語』の大路渡——二松本を中心として——

小山 聡子 95

第二部 奈良絵本と軍記物語

奈良絵本『保元物語』『平治物語』の襖絵について

奈良絵本・絵巻『保元物語』における崇徳院像

物語草子の制作と享受層——常盤の物語をめぐる——

『保元物語』『平治物語』の諸本展開と熊野信仰

——近世挿図表現の問題に及ぶ——

金刀本保元物語の合拗音振仮名と『落葉集』

『愚管抄』と『保元物語』『平治物語』をめぐる試論

源平盛衰記と絵画資料

——フランス国立図書館蔵『源平盛衰記画帖』をめぐる——

磯 水絵 117

山田 雄司 139

恋田 知子 150

源 健一郎 171

佐藤 進 203

麻原 美子 221

松尾 葦江 244

編集後記

執筆者紹介

編集後記

本書は、二松學舎大学附属図書館に所蔵されている奈良絵本『保元物語』『平治物語』（以下、二松本）を中心に、奈良絵本や軍記物語について様々な角度から考察した論文集である。本書では、二松本の包括的な理解のために、奈良絵本『保元物語』『平治物語』の全体論について論じられている石川透論文を第一部の前に配置した。そして、第一部は二松本についての論文（小井土守敏・小森正明・山本陽子・出口久徳・小山聡子）、第二部は奈良絵本『保元物語』『平治物語』に関する論文や奈良絵本・軍記物語に関する論文（磯水絵・山田雄司・恋田知子・源健一郎・佐藤進・麻原美子・松尾葦江）から成っている。

本書は、磯・小井土・小山、さらには東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト「二松學舎大学附属図書館蔵 奈良絵本『保元物語』『平治物語』の翻刻と研究」で開催したシンポジウム「源平の時代を視る」でご発表いただいた方々、また奈良絵本や軍記物語などについて第一線で研究されている方々の論考による。つまり本書は、東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクトの研究成果報告書としての意味を持つものである。

現在まで、奈良絵本の研究は、文学を専門とする研究者を中心に行なわれてきた。それに対して本書は、文学・歴史学・美術史学・中国語学などの多岐にわたる専門分野の研究者による、学際的な視点からの論文集となっている。というのも、とりわけ軍記物語に関する奈良絵本については、歴史的な考証や美術史的な考証などを加えることによって、制作のあり方をより明確にすることが可能となる。それゆえ、本書を出版するにあたっては、あえて多岐にわたる専門分野の研究者に執筆を依頼した。その効あつて、本書に

よって、奈良絵本『保元物語』『平治物語』の中における二松本の位置づけができたように思う。また、本書により、奈良絵本の制作意義やその過程についても、ある程度浮き彫りにすることができた。本書が、近年盛んに行なわれている奈良絵本研究の進展に少しでも貢献できれば、望外の喜びである。

前述したように本書は、東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクトの研究報告書としての意味を持っている。そのようなこともあり、執筆を許諾してくださった方々には、ここに記して御礼申し上げる。また、行き届いた仕事で本書を世に送り出してくださった思文閣出版にも感謝申し上げたい。なお、本書の刊行にあたっては、二松學舎大学東アジア学術総合研究所の刊行助成を受けた。

二〇一四年二月吉日

小山 聡子

松尾 葦江（まつお・あしえ）

東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期中退。國學院大学文学部教授。主要論著に、『軍記物語原論』（笠間書院、2008年）、『源平盛衰記 五』（三弥井書店、2007年）、「資料との「距離」感—平家物語の成立流動を論じる前提として—」（『國學院雑誌』114-11、2013年）など。

出口 久徳（でぐち・ひさのり）

立教大学大学院博士後期課程修了。立教新座中学校・高等学校教諭。主要論著に、『図説平家物語』（共著、河出書房新社、2004年）、『平家物語を知る事典』（共著、東京堂出版、2005年）、「物語絵画と定型をめぐって―寛永三年版『保元物語』の挿絵を中心に―」（『日本文学』62巻7号、2013年7月）など。

*小山 聡子（こやま・さとこ）

筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科修了。二松學舎大学文学部准教授。主要論著に、『護法童子信仰の研究』（自照社出版、2003年）、『親鸞の信仰と呪術―病氣治療と臨終行儀―』（吉川弘文館、2013年）、「護法童子信仰の成立と不動信仰」（磯水絵編『論集 文学と音楽史―詩歌管絃の世界―』和泉書院、2013年）など。

山田 雄司（やまだ・ゆうじ）

筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科修了。三重大学人文学部教授。主要論著に、『崇徳院怨霊の研究』（思文閣出版、2001年）、『跋扈する怨霊』（吉川弘文館、2007年）、「室町時代の災害と伊勢神宮」（『史林』96-1、2013年）など。

恋田 知子（こいだ・ともこ）

慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。国文学研究資料館助教。主要論著に、『仏と女の室町 物語草子論』（笠間書院、2008年）、『薄雲御所慈受院門跡所蔵大織冠絵巻』（勉誠出版、2010年）、「霊場巡礼の成立と縁起生成―巡礼縁起の形態を端緒として―」（徳田和夫編『中世の寺社縁起と参詣』竹林舎、2013年）など。

源 健一郎（みなもと・けんいちろう）

関西学院大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。四天王寺大学人文社会学部教授。主要論著に、「源平盛衰記と寺門派修験」（『軍記物語の窓』第四集、和泉書院、2012年）、「『平家物語』と法然浄土教とを巡る近代的認識」（『軍記と語り物』49、2013年）、「『平家物語』と仏教とを巡る近代的認識」（『佛教文学』37、2013年）など。

佐藤 進（さとう・すすむ）

東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了。北海道文教大学外国語学部教授。主要論著に、『音韻のはなし―中国音韻学の基本知識―』（光生館、1987年）、『全訳・漢辞海』（三省堂、2000年）、『中国語教室Q & A』（大修館書店、2000年）など。

麻原 美子（あさはら・よしこ）

東京教育大学大学院文学研究科博士課程修了。日本女子大学名誉教授。主要論著に、『幸若舞曲考』（新典社、1980年）、『舞の本』（共著、新日本古典文学大系、岩波書店、1994年）、『平家物語 長門本延慶本 対照本文』（共編、勉誠出版、2011年）など。

執筆者紹介
(掲載順、*は編者)

*磯 水 絵 (いそ・みずえ)

二松學舎大学大学院文学研究科博士課程満期退学。二松學舎大学文学部兼大学院教授。主要論著に、『院政期音楽説話の研究』（和泉書院、2003年）、『『源氏物語』時代の音楽研究—中世の楽書から—』（笠間書院、2008年）、『大江匡房—碩学の文人官僚』（勉誠出版、2010年）、『論集 文学と音楽史—詩歌管絃の世界—』（編著、和泉書院、2013年）、『今日是一日、方丈記』（編著、新典社、2013年）など。

石 川 透 (いしかわ・とおる)

慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。慶應義塾大学文学部教授。主要論著に、『落窪物語の変容』（三弥井書店、2001年）、『御伽草子 その世界』（勉誠出版、2004年）、『奈良絵本・絵巻の展開』（三弥井書店、2009年）、『入門奈良絵本・絵巻』（思文閣出版、2010年）など。

*小井土守敏 (こいど・もりとし)

筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得退学。大妻女子大学文学部教授。主要論著に、『長門本 平家物語 一〜四』（共編著、勉誠出版、2004〜06年）、『平家物語長門本・延慶本対照本文』（共編著、勉誠出版、2011年）、『真名本訓読本系統『曾我物語』の改作について』（『国語と国文学』82-12、2005年）など。

小森 正明 (こもり・まさあき)

筑波大学大学院修士課程教育研究科修了。宮内庁書陵部図書調査官・二松學舎大学非常勤講師。主要論著に、『室町期東国社会と寺社造営』（思文閣出版、2008年）、『史料纂集 葉黄記 第二』（共著、続群書類従完成会、2005年）、『史料纂集 教言卿記 第四』（校訂、八木書店、2009年）など。

山本 陽子 (やまもと・ようこ)

早稲田大学大学院文学研究科美術史専攻博士課程後期修了。明星大学人文学部教授。主要論著に、『絵巻における神と天皇の表現—見えぬように描く—』（中央公論美術出版、2006年）、『絵巻の図像学—「絵そらごと」の表現と発想—』（勉誠出版、2012年）、『物語絵画における武士—表現の比較研究と作例のデータベース化』（共著、科学研究費報告書、2009年）など。

二松學舎大学学術叢書
げんぺい し たい み
源平の時代を視る

に しょうがくしやだいがく ふ ぞく と しょうかんしよぞう な ら え ほん ほうげんものがたり
二 松 學舎大学附属図書館所蔵 奈良絵本 『保元物 語』
へい じ ものがたり ちゆうしん
『平治物 語』 を 中 心 に

2014(平成26)年 2 月25日 発 行

定価：本体4,800円(税別)

編 者 磯水絵・小井土守敏・小山聡子

発行者 田 中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話075-751-1781(代表)

印 刷 亜細亜印刷株式会社
製 本

©M. Iso/M. Koido/S. Koyama 2014

ISBN978-4-7842-1735-9 C3095